

☆第 1 回策定委員会でみなさまから頂戴した質問・意見を下記のとおりまとめました。

【質問】

○「国見の子は一つ」のスローガンの補足説明をお願いしたい。

→保育所・幼稚園・小学校の統合により、町内に保・幼・小・中が1 ずつになったことを機に、平成26年より「国見学園」を称したコミュニティ・スクールを立ち上げ、また、国見の子どもが中学校を卒業するときに「こんな力をつけてほしい」ということを明確にして、それぞれの保・幼・小・中の段階で「アクティプラン」を作成し取り組みを進めているところです。

○「くにみ学園」は義務教育学校になるのか、小中一貫校になるのか？

→それぞれの枠組みの違いや、先進的事例を参考にしながら、どのような編成が良いのか、今後検討していきます。

○給食センターの自校方式とは、なるべく地元の農家に協力いただきながら、地元の食材を使用して給食を作り、子どもたちに食育を行うということか？

→学校敷地内に給食施設をつくることで、温かい給食を提供し、また、地産地消、地元の食材提供についてもさらに進めていきたいと考えています。

【意見】

□「くにみ学園」について、町外に向けてどんどん発信することで、移住につながり、児童数も増えるのでは？

→現段階では、国見町に今住んでいる子どもたち、これから生まれてくる子どもたちに、きちんと国見町で学ぶことによって、都市部と大差のない学びができる環境を準備することが一番大きいところだと考えています。

□一貫カリキュラムを作るにあたっては、「どのような子どもに育ててほしいのか」というイメージをみんなで持ちながら、一定期間経った時にどう考察しているかという流れを作ることが非常に重要。

□学校と地域の協働関係については、地域が学校を支えるばかりではなく、子どもたちがどう地域に関わっていくか、関わっていく中でその子どもたちの力をどう伸ばしていくのか、その子がどういう生き方をしていきたいのか、自己実現をどのように行っていくのかという両立が大事である。

□「くにみ学園」の代名詞となるカリキュラムを考えると、「自然」と「デジタル」をどのように融合させていくか、また「問題発見」を子どもと大人が共にやれる仕組みづくりが大事であると感じた。

□「体験学習」について、カリキュラムだけではなく、学校内にコーディネーター役の人を戦略的に配置することがとても重要。

□まずは学歴主義の大人の価値観をどう崩せるかが大事。これを機会にどこまで子ども中心で問い直せるか、我々自身がサポーターとして、子どもたちにどう居心地よくなってもらうのか、また、我々自身がワクワクできるのかチャレンジできれば、学校と地域の連携について課題となっている壁を乗り越えていけるのではないかと。

□「くにみ学園」になる背景・趣旨について、きちんと町民に伝えるべき。せっかくの大きな事業なので、たくさんの人の意見をすくい上げて作ってほしい。

□子ども一人一人の光っているものを磨いてあげる、少人数だからこそできる場になるのではと感じた。また、「生きる力」には「食べること」が一番大切なので、「おいしく食べる」ことを基本に「食育」についても検討できると良いと思う。

□実際に集団の中でなかなか生活しづらい子どもがある程度の割合にいるため、そういう子どもたちが大人から受け入れてもらって、サポートしてもらって、気持ちのどこかで折り合いをつけながら社会に出たときに他人と関わっていけるようなサポートをしていきたいと思っている。

□周囲の保護者からは、「くにみ学園」について1つだけ懸念するならば、12（15）年間ずっとそこに居続けるのであれば、そこでいじめが発生したときに逃げ場がなくなることが心配だという意見が聞かれた。

□「くにみ学園を作る」というと、「学校が新しくなる」というイメージを持つ方が多いので、「くにみ学園」だからできる教育課程、子育ての仕方についても同時に発信すると、賛同が得やすくなると感じる。

□園長先生はじめ先生方がいつも一生懸命で、安心して幼稚園に預けられているので、「くにみ学園」を作っても安心して信頼できる学園になってほしい。

□国見小学校、県北中学校は非常に長い歴史のある学校であり、校名や校歌がなくなることにたいする年配の方の抵抗が考えられるため、丁寧な説明が必要と感じる。

□今の子どもたちが親の世代になった時に、自分の子どもを「くにみ学園」で教育を受けさせたいという思いを持ってもらえる学園にしなければと感じた。

□義務教育学校について、これまでの事例から後期課程の子どもたちが前期課程の子どもたちの面倒をすごく見るというのはどこの学校でも聞かれており、また、前期課程の子どもたちは後期課程の子どもたちを憧れの目で見るとなるという良い育ちができる可能性があると感じる。

□地域と学校については現在も課題があり、なかなか交流できていない部分があるが、子どもたちには町の地域課題は何で、その課題を解決するためにどんな手立てがあるのか、そういった探求学習をさせたい。そのためには、地域の方々との関わりが深くないと課題も見えてこないため、地域の方と子どもたちの関わりが密になる工夫があると良い。

□「くにみ学園構想」について、大人が話し合っている過程を子どもたちに「見てもらおう」「聞いてもらおう」また「入ってもらおう」ことで、検討過程がより有意義になると感じる。